

使用教材：地図帳『新詳高等地図』、教科書『高等学校 新地理総合』



地図帳の主題図を用いて、世界の気候区について確認しよう。

問1 (1) 『新詳高等地図』p.141~142「①世界の気候区と海流」の図を見て、赤道から高緯度側に向かって気候帯がどのように変化するかケッペンの気候記号とともに書き出してみよう。

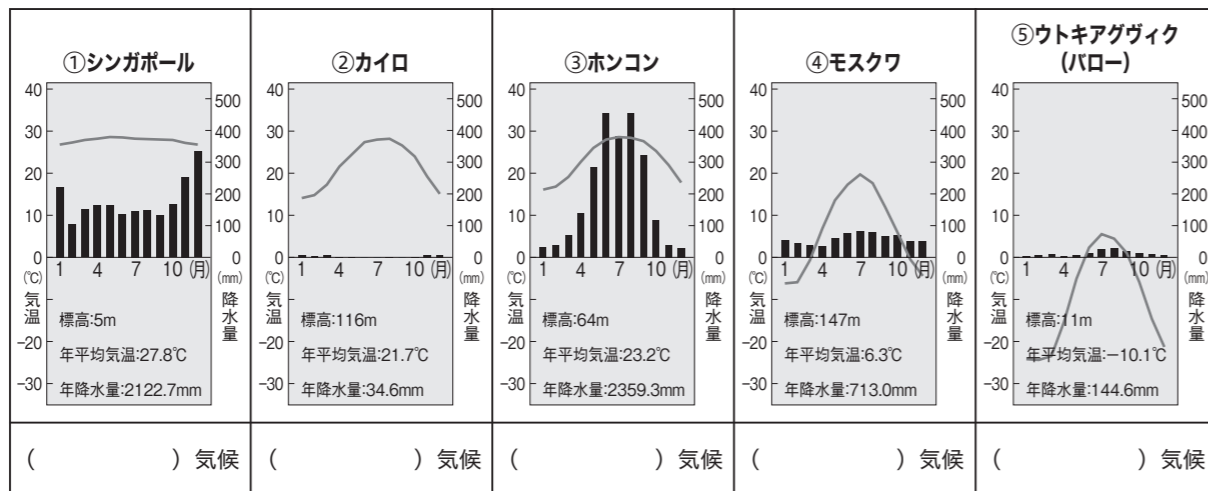
赤道側 ()気候記号() → ()気候記号() → ()気候記号()
→ ()気候記号() → ()気候記号() 高緯度側

(2) 亜寒帯(冷帯)気候が分布する大陸を2つ書き出してみよう。

()大陸 ()大陸

(3) 『新詳高等地図』p.141~142「①世界の気候区と海流」の図を見て、次の①~⑤の都市にあてはまる気候区を語群から選んで答えてみよう。また、①~⑤の都市の位置を地図帳で探してみよう。

Table with 6 columns: 語群, 亜寒帯(冷帯)湿潤, 温暖冬季少雨, 砂漠, ツンドラ, 熱帯雨林



(4) (3)の①~⑤の都市にあてはまる気候区の降水の理由について、次の文章の()の中から適する語句を選び、○を付けよう。

- ①シンガポールは(赤道 回帰線)付近に位置し、(亜熱帯高圧帯 熱帯収束帯)の影響を受け、1年を通して降水量が多い。
②カイロは(赤道 回帰線)付近に位置し、(亜熱帯高圧帯 熱帯収束帯)の影響を受け、1年を通して降水がほとんど見られない。
③ホンコンは大陸の(東岸 西岸)に位置し、(季節風 偏西風)の影響を受け、夏は海からの湿った空気がもたらされ雨季に、冬は大陸からの乾いた空気がもたらされ乾季となる。
④モスクワは北緯56度付近の内陸部に位置し、(極高圧帯 寒帯前線)の影響を受け、1年を通して降水が見られる。
⑤バローは、(南極海 北極海)の沿岸部に位置し、(極高圧帯 寒帯前線)の影響を受け、1年を通して降水量は非常に少ない。

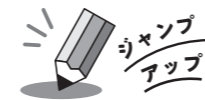


地図帳を活用し、世界の植生が気候とどのように関わり合っているのか考えてみよう。

問2

『新詳高等地図』p.141~142「②世界の植生分布」やハイサーグラフ下の植生のイラストを見て、次の気候と植生の関わりについて説明した文章中の空欄に入る植生を考えてみよう。

- ①熱帯が広がる地域のうち、年中降水が見られる赤道周辺では、常緑広葉樹からなる()が、冬に乾季が見られる地域では、乾燥に強い樹木と草丈の長い草原からなる()が広がっている。
②乾燥帯が広がる地域のうち、1年を通して降水がほとんど見られない回帰線付近では、岩石や砂が一面に広がる()が、短い雨季がある回帰線からやや離れた地域では、樹林が生育するには降水が不十分のため草丈の短い草原が一面に見られる()が広がっている。
③温帯の地域は、地域によって気温の差や降水量の季節変化の違いが大きく、さまざまな地域性が見られる。大陸東岸では、低緯度から高緯度に向かうにつれて気温の年較差が大きくなることから、広葉樹林から混合林へと変化する。大陸西岸では、低緯度側では夏の高温乾燥に耐える()が広がり、高緯度側では年中降水が見られることから広葉・混合林が広がっている。
④亜寒帯(冷帯)は樹林が育つ気候のうち、最も寒冷な地域である。温帯に近い低緯度側(南部)では、混合林が広がるが、高緯度側(北部)では樹種の少ない()が広がっている。
⑤寒帯は寒さが一年中厳しく、降水量は非常に少ないために樹木は見られない。寒帯のうち、北極海沿岸やチベット高原など夏に月平均気温が0度以上まで上がる地域では、コケ類や地衣類が育つ()が広がり、南極大陸やグリーンランドでは、積もった雪が低温のためにとけずに圧縮されて大陸氷河を形成するため氷雪に覆われている。



地図帳を活用し、気候と人々の生活がどのように関わり合っているのか考えてみよう。

問3

(1) 『新詳高等地図』p.63「①ヨーロッパの農業」「②ヨーロッパの気候」の図を見て、次の(a)・(b)の地域で見られる気候の特徴と農業の特徴をそれぞれ説明しよう。

(a) 北海や大西洋に面した地域

気候の特徴

農業の特徴

(b) 地中海沿岸

気候の特徴

農業の特徴

(2) 『新詳高等地図』p.57の地図とp.141~142「①世界の気候区と海流」の図を比べて、ヨーロッパにおいて稲作地が分布している地域とその地域の気候がどのように関わっているのか説明してみよう。

地図帳から読み解く「世界の気候と人々の生活」

関西大学高等部 中村 明信

本ワークシートで世界の気候を学習するにあたって

「世界の気候と人々の生活」（『高等学校 新地理総合』（以下、教科書）p.60～77）の分野は、教科書では、気候要素（気温・降水・風）、世界の植生と気候区分、各気候の生活の順に学習する構成になっているが、本ワークシートでは、ケッペンの気候区分を軸にした構成で、気候区分を確認しながら、気候要素、植生、ヨーロッパの人々の生活についてそれぞれ学習する流れとなっている。

まず、「ウォーミングアップ」では、気候区分の分布の特徴や、雨温図の読み取りなどを行い、各気候区の説明文から大気大循環による降水の特徴について取り上げている。「ステップアップ」では、世界の植生に注目し、イラストから植生の特徴や気候との関連について取り上げた。「ジャンプアップ」では、気候と人々の生活についてヨーロッパの事例を使い、「世界の産業と人々の生活」（教科書p.120～144）の農業分野の内容も踏まえながら農業との関連について取り上げている。

地図帳から読み解く世界の気候区分と降水の季節変化の理由(ウォーミングアップ)

本ワークシートでは、まず、(1)・(2)で気候帯の分布を確認する。『新詳高等地図』（以下、地図帳）p.141～142「①世界の気候区と海流」の図からも分かるおと、ケッペンの気候区分では赤道から極に向かうにつれてABCの順で気候記号が割りふられているので分布がつかみ取りやすい。低緯度では多くの太陽エネルギーを受けるため気温が高くなることから熱帯気候(A)が広がり、高緯度ほど気温が低くなることから寒帯気候(E)が広がっている。北半球に陸地が偏り、南緯60度付近に大陸が分布しないことから、亜寒帯(冷帯)気候(D)が南半球に見られないことも確認したい。(3)では、気候区ごとの分布を地図帳から読み取っていく。地図帳から都市を見つける基礎的な作業だけでなく、雨温図の気温や降水量の季節変化に注目して気候区を判定する発展的な作業まで、理解度に応じて各気候区を確認することができる。

(4)では、各気候の降水の季節変化の理由を、大気大循環から読み解いていく。留意点としては(3)・(4)ともにケッペンの気候区分のすべてを扱っているわけではないので、

時間があればワークシートで扱っていない気候区についても地図帳に載っている雨温図から都市の位置や降水の特徴について言及したい。

地図帳から読み解く世界の植生と気候の関わり(ステップアップ)

ケッペンの気候区分は、植生との関係に着目して分類されている。本ワークシートでは、気候帯ごとに、それぞれの気候区で見られる一般的な植生について地図帳p.142「②世界の植生分布」とp.141～142の植生のイラストから確認していく。単に植生の名前と分布を覚えるだけでなく、植生のイラストを利用して、樹種の特徴についても視覚的に理解を深めていきたい。イラストからも分かるおと、ケッペンの気候区分は、樹林のある気候(A気候・C気候・D気候)と樹林のない気候(B気候・E気候)に大きく分類されているが、樹林が育つ要因として降水や気温に注目しながら、それぞれの気候区で生育している植物の特徴について確認していく。

地図帳から読み解く気候と人々の生活との関わり(ジャンプアップ)

気候は、その地域に暮らす人々の生活に大きな影響を与えるが、本ワークシートでは、ヨーロッパの事例を通して気候と農業との関連について確認していく。(1)は、ヨーロッパにおける一般的な気候((a)は西岸海洋性気候、(b)は地中海性気候)の特色と、それぞれの地域で栽培が盛んな農作物や農業の特徴について気候との関連を踏まえながら確認していく。地図帳p.63では栽培地域の分布しか分からないので、必要に応じて、教科書の巻末にある農作物の写真からそれぞれの農作物の特徴について説明を行ったり、教科書p.140「EU統合による農業への影響」などを利用して食文化についても言及したりするなどしたい。(2)ではイタリアのポー川流域の稲作について取り上げる。ヨーロッパでも温暖湿潤気候の地域がポー川流域に見られ、稲作が行われている。夏に高温で年中湿潤の気候が稲作に適していることを理解すると同時に、スペインのバレンシア地方の稲作にも言及して、イタリアのリゾートやスペインのパエリアなどの米を用いた食文化についても確認したい。

右面の解答例はコピーしてご活用ください。



問1 (1)

赤道側（熱帯）気候記号（A）→（乾燥帯）気候記号（B）→（温帯）気候記号（C）→（亜寒帯（冷帯））気候記号（D）→（寒帯）気候記号（E）高緯度側

(2)

（ユーラシア）大陸 （北アメリカ）大陸

(3)

①（熱帯雨林）気候 ②（砂漠）気候 ③（温暖冬季少雨）気候
④（亜寒帯（冷帯）湿潤）気候 ⑤（ツンドラ）気候

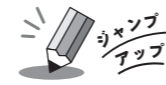
(4)

①（赤道）回帰線）（亜熱帯高圧帯 熱帯収束帯）
②（赤道）回帰線）（亜熱帯高圧帯 熱帯収束帯）
③（東岸）西岸）（季節風 偏西風）
④（極高圧帯 寒帯前線）
⑤（南極海）北極海）（極高圧帯 寒帯前線）



問2

①	熱帯雨林	サバナ
②	砂漠	ステップ
③	地中海性低木林	
④	針葉樹林（タイガ）	
⑤	ツンドラ	



問3 (1)

(a) 気候の特徴 沖合を流れる暖流の北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けて、1年間を通して降水が見られ、気温の年較差は小さい。

農業の特徴 穀物の栽培と家畜の飼育を組み合わせた混合農業や乳牛を飼育する酪農が行われていて、小麦やてんさいの栽培が盛んである。

(b) 気候の特徴 夏は亜熱帯高圧帯の影響を受けるため暑くて乾燥し、亜寒帯低圧帯の影響を受ける冬に降水が集中する。

農業の特徴 樹木作物を栽培する地中海式農業が行われていて、オリーブやぶどう、柑橘類の栽培が盛んである。

(2)

イタリアのポー川流域は温暖湿潤気候が広がり、夏は高温湿潤な気候で、米の生育に適している。